

地方自治体の都市政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響

- 富山県小矢部市を事例として -

Impact of Citizen Satisfaction with Local Government Urban Policies on Civic Pride

- As a Case Study of Oyabe City, Toyama Prefecture -

藪谷 祐介*・阿久井 康平**
Yusuke Yabutani*, Kohei Akui**

In this study, we empirically examined the impact of citizen satisfaction with each urban policy as written in the local government's comprehensive plan on the fostering of civic pride, using Oyabe City as a case study. The results of the citizen questionnaire survey statistically revealed a cause-and-effect relationship in which increasing the level of satisfaction with policies related to municipal management through public-private collaboration, formation of attractive urban space and promotion of tourism, and promotion of education fosters attachment, which constitutes civic pride, and thus identity, engagement and desire for maintaining. The study also revealed that creating opportunities for citizens to participate in society and fostering a sense of ownership is the most effective policy for fostering civic pride, and that civic pride is higher among men, the elderly, and citizens who have lived in the community for longer periods of time.

Keywords: place attachment, local identity, comprehensive plan, measure, cooperation, covariance structure analysis

地域愛着, 地域アイデンティティ, 総合計画, 施策, 協働, 共分散構造分析

1. 研究の背景と目的

地方都市では、地方の魅力低下等の原因から、都心部への人口流出が課題となっており、その根底には「市民の地域に対する関心の低さ」という課題を有していると指摘されている¹⁾。そこで近年、多くの地方自治体の都市政策(以下、政策)においてシビックプライド(都市に対する市民としての誇り²⁾が注目されており、市民のシビックプライドを醸成することにより、定住人口の増加、社会参画意識の向上などが期待されている³⁾。

伊藤²⁾は英米の文献から、シビックプライドには地域参画、地域アイデンティティ、忠誠的愛郷心、地域愛着の側面があることを整理し、それを測定することが可能な尺度を開発した。そしてその尺度を用いて、都市環境の評価や都市を構成する交通、文化、産業、食、自然といった様々な要素がシビックプライドに与える影響を明らかにしている。また、Brown et al.⁵⁾やHidalgo et al.⁷⁾は、シビックプライドの下位概念である地域愛着⁴⁾が年齢、性別、仕事、居住年数などの個人属性、コミュニティなどの社会的環境、自然などの物質的環境といった様々な要素に影響される可能性を指摘し、鈴木ら⁸⁾¹⁰⁾は、移動行動時の地域風土との接触や利用店舗への愛着、消費行動が地域愛着に与える影響を明らかにしている。さらに、角田ら¹¹⁾は地域愛着と生活満足度との関連性を指摘している。

このように地域愛着はシビックプライドの構成要素の一つであることから、シビックプライドは、生活満足度を始めとした都市や生活に関わる様々な要素に影響されると考えられる。それでは、地方自治体に取り組む政策は市民のシビックプライドにどのような影響を与えるのか。政策は、都市環境や市民の生活全般に多面的影響を与えるものであるため、政策の内容やそれに対する市民の満足度はシビッ

クプライドと関連があると仮説を立てることができる。

シビックプライドを醸成するための方策について、井形ら¹⁾は、小学校の地域学習を通じた児童のシビックプライド形成過程を解明している。また、羽鳥ら¹²⁾は、シビックプライドを醸成する施策として住民参加型・回覧型「思い出マップ」を提案し、その提案手法がシビックプライド醸成に一定の効果を持ち得ることを明らかにしている。これらは個別具体的かつ有用なシビックプライドの形成手法を示唆するものであるが、地方自治体の総合計画に記される多様な政策がシビックプライドに与える複合的な影響を分析した研究は見られない。そこで、どのような政策への評価が高いとシビックプライドが醸成されているかを、総合計画に記されている様々な政策を横断的に検証することで、今後、市民のシビックプライド醸成を推進しようとする地方自治体が、どのような政策に重点的に、あるいはバランスを考慮しながら取り組むかを検討する上での有用な知見が得られると考えられる。

以上より本研究では、地方自治体の総合計画に記されている各政策への市民満足度が、シビックプライドに与える影響を実証的に検証することで、どのような政策がシビックプライド醸成に有効かを明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

2-1. 調査対象

本研究では、富山県小矢部市を調査対象とした。小矢部市は人口 29,459 人¹³⁾の市で、県内 15 市町村のうち 10 番目である。首都圏や近隣市への人口流出が課題である¹⁴⁾。富山県西端に位置し、高岡市や石川県金沢市と隣接している。小矢部川が南から北北東へ向かって市内を流れ、市の東南部は砺波平野の一角を占める水稲単作の穀倉地帯で、散居

* 正会員 富山大学学術研究部芸術文化学系 (University of Toyama)

**正会員 大阪公立大学大学院現代システム科学研究科 (Osaka Metropolitan University)

村の景観が広がる。また、西北部は稲葉山をはじめとする丘陵地帯となっており、自然豊かな地域である。

また、2018年に新駅舎が完成した石動駅を中心に市街地を形成し、旧北陸街道の宿場町として栄えた通りは、戦後、多くが防災建築街区としてRC造の建物に建て替えられた。かつては活気があった商店街であったが、現在は空き店舗が目立ち、住宅と商店が混在する。2015年には大型ショッピングモールが郊外に開業し、市内外から多くの来場者が訪れる。さらに、国内外の著名な西洋建築を模して建てられた35のメルヘン建築²⁾と呼ばれる公共建築群が市内に点在している。加えて、米、ハトムギ、里芋、りんごなどの農作物や牛肉、鶏卵などの特産品が豊かな地域でもある。

小矢部市は、①上述の通り、自然や食が豊かな地域であるとともに、防災建築街区やメルヘン建築といった特徴的な都市環境を有していること、②2020年に策定した「小矢部市シティプロモーション戦略プラン¹⁵⁾」において、市民の愛着と誇りを形成することを戦略として掲げ、シビックプライドの醸成に取り組んでいること、③既往研究¹⁶⁾において、市民のある程度の地域愛着の高さが確認できることから、調査対象に選定した。

2-2. 小矢部市総合計画の概要

小矢部市は2019年度から2028年度までのまちづくりの指針を記した第7次小矢部市総合計画¹⁷⁾を策定した。これは基本構想、基本計画、実施計画から構成される。基本構想では、「魅力・安心・充実 しあわせ おやべ」を小矢部市の将来像として掲げ、「住んでみたい魅力かがやくまちづくり」「住み続けたい安心感あふれるまちづくり」「住んで良かった充実感たわまるまちづくり」の3つをまちづくりの基本テーマとしている。基本計画では、基本構想に示された将来像を実現するために6つの基本目標を掲げ、基本目標ごとに「政策」と「施策」を体系的に定めている(表3)。また実施計画では、基本計画に定められた施策を具体的な事業として実現するための計画を定めている。

2-3. 調査方法

小矢部市民を対象に、政策に対する満足度とシビックプライドに関するアンケート調査を実施した(表1)。小矢部市では2年に1回、市民のまちづくりへの意見を把握するために、市民満足度調査を実施している。本調査では、これに伊藤²⁾が開発したシビックプライド尺度を追加し、小矢部市で無作為抽出した満18歳以上の小矢部市民に調査票を郵送で配布した。返信用封筒を同封し、郵送により回答を得た。

調査項目は、I.属性、II.シビックプライド尺度、III.政策満足度である。I.属性では、性別、年齢、居住年数、市外居住経験の有無について尋ねた⁹⁾。II.シビックプライド尺度については、地域愛着、忠誠的愛郷心、地域参画、地域アイデンティティの4指標、計20項目を用い、回答は、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5件法で求めた(表2)。III.政策満足度は、第7次小矢部市総合計画に記されている6つのまちづくりの基本目標ごとに掲げる計43政策に対する満足度を、「高い」から「低い」の5件法で回

表1 調査概要

調査期間	2021年7月1日～2021年8月6日
調査対象	満18歳以上の小矢部市民から無作為抽出
配布方法	調査票を郵送により配布し、同封の封筒により郵送回答
配布数	1250
回答数	回答数 479 (回答率 38.3%) / 有効回答数 437 (有効回答率 35.0%)
調査項目	I. 属性 性別/年齢/居住年数/市外居住経験の有無
	II. シビックプライド尺度 既往研究 ²⁾ で用いられている地域愛着、忠誠的愛郷心、地域参画、地域アイデンティティの4指標計20項目(あてはまる5点・ややあてはまる4点・どちらともいえない3点・ややあてはまらない2点・あてはまらない1点)
	III. 政策満足度 第7次小矢部市総合計画に記されている以下の6つのまちづくりの基本目標に含まれている43政策への満足度 基本目標1. 魅力あふれる産業と経済活力のみなざるまち(6政策) 基本目標2. 人をよびこむ都市空間と多彩な交流でにぎわうまち(10政策) 基本目標3. 未来にやさしい環境と安全安心に暮らせるまち(8政策) 基本目標4. 市民と行政が協働して自治体経営を支えるまち(5政策) 基本目標5. 人をすこやかにくぐくむ教育と歴史文化がいきづくまち(6政策) 基本目標6. 心がやすらぐ健康とあたたかな福祉で支え合うまち(8政策) (高い5点・やや高い4点・どちらともいえない3点・やや低い2点・低い1点)

表2 シビックプライド尺度項目

指標	項目	平均値
地域愛着	1. 小矢部市に住みやすいと思う	3.55
	2. 小矢部市が好きだ	3.61
	3. 小矢部市の雰囲気や土地柄が気に入っている	3.43
	4. 小矢部市に自分の居場所はない(逆転項目)	3.99
	5. 小矢部市にずっと住み続けたい	3.48
	6. 小矢部市は大切だと思う	3.86
	7. 小矢部市にいつまでも変わって欲しくないものがある	3.38
	8. 小矢部市になくなってしまおうと悲しいものがある	3.53
忠誠的愛郷心	9. 小矢部市は他のほとんどの地域より良い場所である	3.00
	10. 小矢部市を批判している人がいたら、小矢部市を擁護する	3.21
	11. 友人や家族に小矢部市の産品や製品を使うように勧める	2.89
	12. 小矢部市のスポーツチームを積極的に応援する	3.35
地域参画	13. 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	3.14
	14. 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	2.56
	15. 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています	2.65
	16. 自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	2.18
地域アイデンティティ	17. 人生の大部分が小矢部市に結びついている	3.17
	18. 「小矢部市の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である	2.35
	19. 小矢部市民であることは自分にとって重要なことである	2.75
	20. 小矢部市は自分にとって特別な場所である	3.26

答を求めた(表3)。1250部配布し、回答数は479(回答率38.3%)、有効回答数は437(有効回答率35.0%)であった。

3. 回答者の属性

有効回答者437名の属性を整理する(表5)。性別は男性(47.1%)、女性(52.9%)と、人口男女比¹³⁾(男性48.7%、女性51.3%)と大きな差はなかった。年齢は、30-39歳(24.3%)や29歳以下(22.4%)などの若年層が46.7%を占めた。全人口による20-39歳の割合は16.7%であることから、実際の年代比率に比べ回答者は大きく若者に偏っている。これは、小矢部市が各年代比を配慮しながら対象者を抽出したからだと考えられる⁴⁾。小矢部市への居住年数は30年以上(54.9%)が最も多く、次いで20-29年(20.4%)の割合が高いことから、全体的に小矢部市への居住年数が長い。また、小矢部市外での居住経験がある回答者(69.6%)は約7割を占めた。

4. シビックプライド尺度による類型化とその特徴

4-1. シビックプライド尺度の回答傾向

表2にシビックプライド尺度の平均値を示した⁵⁾。最も平均値が高かったのは、「4.小矢部市に自分の居場所がない(逆転項目)」、続いて「6.小矢部市は大切だと思う」、「2.小

矢部市が好きだ」、「1.小矢部市は住みやすいと思う」となり、地域愛着の項目が高い結果となった。一方、最も平均値が低かったのは、「16.自分は地域社会に変化を起こすことができると思う」であり、続いて「18.「小矢部の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である」、「14.自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う」、「15.地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています」であった。地域参画の項目が低い結果となった。富山市を対象とした既往研究²⁾と比較すると、地域愛着が高く、地域参画が低いという傾向は同様であるが、「4.小矢部市に自分の居場所がない(逆転項目)」、「12.小矢部市のスポーツチームを積極的に応援する」「13.地域社会の一員としての責任を真剣に考えている」の3尺度以外はすべて富山市の方が高く、さらにすべての項目の平均値も小矢部市(3.17)より富山市(3.33)の方が0.16高かった。

4-2. シビックプライド因子の抽出

シビックプライド尺度 20 項目への回答結果を用い、因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った結果、「11.友人や家族に小矢部市の産品や製品を使うように勧める」、「12.小矢部市のスポーツチームを積極的に応援する」の2項目の因子負荷量が0.35以下であった。この2項目を除外し再度探索的に因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った結果、固有値が1以上の4因子を抽出した(表4)。項目の妥当性を確認するため、KMOの標本妥当性の測度検討⁶⁾とBartlett球面性検定⁷⁾を行った結果、KMOは0.917、球面性検定有意確立 $p < 0.001$ となり、因子分析の適用は妥当だと判断した。因子間相関では、各因子間に中程度の正の相関(0.364~0.681)が認められた。除外した項目以外は既往研究²⁾の因子分析と類似の傾向となり、それに倣って、第1因子を「愛着」因子、第2因子「参画」因子、第3因子を「アイデンティティ」因子、第4因子を「持続願望」因子と解釈した。

4-3. シビックプライドによる類型化

回答者をシビックプライドにより類型化するため、4-2の因子分析から得られた因子得点を標準化したものを用いてクラスター分析(word法、平方ユークリッド距離)を行い、回答者437名を3つに類型化した。各類型のシビックプライドの特性を明らかにするために、類型ごとに回答者の各因子得点の平均値を算出した(図1)。

類型1は97名(22.2%)で構成され、他の類型と比較し、すべての因子で因子得点平均値が高いことから、最もシビックプライドが高い類型であると考えられる。そのため、この類型を高シビックプライド型とした。類型2は253名(57.9%)で構成され、全ての因子で因子得点平均値が0に近い値を示していることから中シビックプライド型とした。類型3は87名(19.9%)で構成され、他の類型と比較し全

ての因子得点平均値が低く、-1.0以下となっていることから、最もシビックプライドが低い類型であると考えられる。そのため、低シビックプライド型とした。

4-4. 各シビックプライド類型の特徴

各シビックプライド類型の特徴を把握するため、各シビ

表3 政策満足度の回答を求める各政策

基本目標	政策	平均値
基本目標1. 魅力あふれる産業と 経済活力のみなざるまち	21.農業・農村の振興	3.07
	22.商工業の振興	2.50
	23.地域ブランドの振興	2.86
	24.中心市街地の活性化	2.40
	25.企業立地の促進	2.62
	26.雇用の安定	2.75
基本目標2. 人をよびこむ都市空間と 多彩な交流でにぎわうまち	27.魅力ある市街地等の形成	2.68
	28.道路ネットワークの充実	2.96
	29.上下水道の整備	3.27
	30.公園・緑地の充実	2.98
	31.住宅・宅地の充実	3.03
	32.交通体系の充実	2.70
	33.地域情報化の推進	2.88
	34.観光の振興	2.47
	35.地域間・国際交流の推進	2.56
	36.移住・定住の促進	2.76
基本目標3. 未来にやさしい環境と 安全安心に暮らせるまち	37.地球温暖化防止活動の促進	2.79
	38.豊かな森の保全・活用	2.96
	39.雪に強いまちづくりの推進	2.74
	40.生活環境の保全	3.30
	41.防災・危機管理体制の充実	3.11
	42.消防・救急体制の充実	3.33
	43.交通安全対策の充実	3.28
	44.犯罪をおこさせないまちづくりの推進	3.25
基本目標4. 市民と行政が協働して 自治体経営を支えるまち	45.市民と行政との協働の推進	2.91
	46.男女共同参画社会の推進	2.85
	47.人権の尊重	2.96
	48.開かれた市政の推進	3.08
基本目標5. 人をすこやかにはぐくむ 教育と歴史文化がいきづくまち	49.持続可能な自治体経営の確立	2.91
	50.学校教育の充実	3.19
	51.青少年の健全育成	3.13
	52.生涯にわたる学習活動の推進	3.10
	53.生涯スポーツの促進	3.03
	54.芸術・文化の振興	2.97
	55.歴史遺産・文化財の保存と活用	3.04
基本目標6. 心がやすらぐ健康あたたかな 福祉で支え合うまち	56.地域医療体制の充実と健康づくりの推進	3.05
	57.社会保障の充実	3.11
	58.地域ぐるみ福祉の推進	3.11
	59.結婚支援の推進	2.91
	60.妊娠・出産・子育て支援の充実	3.03
	61.就学前教育・保育の充実	3.17
	62.障害者及び障害児福祉の充実	3.05
	63.高齢者福祉の充実	3.14

表4 シビックプライドの因子分析推定結果

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	愛着	参画	アイデンティティ	持続願望
2.小矢部市が好きだ	0.999	0.060	-0.134	-0.057
3.小矢部市の雰囲気や土地柄が気に入っている	0.866	0.086	-0.161	0.042
1.小矢部市は住みやすいと思う	0.824	-0.043	-0.111	0.005
6.小矢部市は大切だと思う	0.559	-0.031	0.144	0.129
5.小矢部市にずっと住み続けたい	0.554	-0.030	0.216	0.022
4.小矢部市に自分の居場所はない	0.510	-0.073	0.109	-0.115
9.小矢部市は、他のほとんどの地域より良い場所である	0.416	0.010	0.278	0.072
10.小矢部市を批判している人がいたら、小矢部市を擁護する	0.370	0.039	0.329	0.057
14.自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	-0.084	0.906	0.021	0.048
16.自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	-0.097	0.818	-0.013	0.046
15.地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができていますと思う	0.090	0.790	-0.012	-0.061
13.地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	0.168	0.533	0.114	-0.088
19.小矢部市民であることは自分にとって重要である	0.018	0.053	0.793	0.031
17.人生の大部分が小矢部市に結びついている	0.030	-0.035	0.769	-0.131
18.「小矢部の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である	-0.144	0.144	0.686	0.046
20.小矢部市は自分にとって特別な場所である	0.335	-0.050	0.483	0.053
7.小矢部市にいつでも変わって欲しくないものがある	-0.033	0.006	-0.107	1.079
8.小矢部市になくなってしまおうと悲しいものがある	0.110	-0.035	0.132	0.579
因子間相関				
第1因子	-	0.389	0.681	0.622
第2因子		-	0.574	0.364
第3因子			-	0.621
第4因子				-

ックプライド類型と属性とのクロス集計を行い、カイ二乗検定および残差分析を行った(表5)。その結果、有意差が見られたのは、性別、年齢、居住年数であった。

性別について、高シビックプライド型は男性が $p<0.05$ で有意に多く、一方で中シビックプライド型は女性が $p<0.05$ で有意に多かった。男性の方がシビックプライドが高いことが伺える。これについて詳細に分析するため、性別ごとにシビックプライド尺度の各項目の平均値を算出し比較したところ、ほとんどの項目で差は見られないものの、「参画」因子の因子負荷量が高い「14.自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う」(男性 2.73、女性 2.41)、「15.地域社会をより良い場所にするための自分なりの貢献ができていと思う」(男性 2.88、女性 2.44)、「16.自分は地域社会に変化を起こすことができると思う」(男性 2.38、女性 2.00)の3項目で男性の方が0.3以上高い結果となった。これより、男性の方が地域参画の意識が高く、そのことがシビックプライドの高さに影響していると考えられる。

年齢について、高シビックプライド型は70歳以上が $p<0.01$ で有意に多く、高齢者は他の年代と比較しシビックプライドが高いと考えられる。

居住年数について、高シビックプライド型は30年以上が、低シビックプライド型は5~9年が、それぞれ $p<0.01$ で有意に多かった。これらより、居住年数が長い方がシビックプライドが高いと考えられる。

以上の実質的な差を検討するために Cramer's V⁽⁸⁾ を算出した。結果、性別: $V=0.13$ 、年齢: $V=0.15$ 、居住年数 $V=0.14$ となり、それぞれ効果量小の基準を上回ったことから、小さいながらも実質的な差が確認された。なお、市外居住経験の有無については有意差が確認できず ($V=0.06$ で効果量なし)、シビックプライドとの関連が低いと考えられる。

5. 政策満足度による類型化とその特徴

5-1. 政策満足度の回答傾向

表3に政策満足度の平均値を示した。最も平均値が高かったのは「42.消防・救急体制の充実」(3.33)で、次いで「40.生活環境の保全」(3.30)、「43.交通安全対策の充実」(3.28)、「29.上下水道の整備」(3.27)、「44.犯罪をおこさせないまちづくりの推進」(3.25)の順で、これらは平均値3.2以上と他の項目と比較すると満足度が高い。一方、「24.中心市街地の活性化」(2.40)、「34.観光の振興」(2.47)、「22.商工業の振興」(2.50)、「35.地域間・国際交流の推進」(2.56)が他の項目と比べて低い。平均値の高い「42.消防・救急体制の充実」、「40.生活環境の保全」、「43.交通安全対策の充実」、「44.犯罪をおこさせないまちづくりの推進」はすべてまちづくり基本目標3「未来にやさしい環境と安全安心に暮らせるまち」に含まれる政策であることから、環境に優しく安全安心に暮らせるまちづくりに対する満足度が高いと考えられる。一方、中心市街地活性化や商業振興などの産業・経済の活発化や、観光振興や地域間・国際交流の推進といった市外へのPRや交流に対する満足度が低いと考えられる。

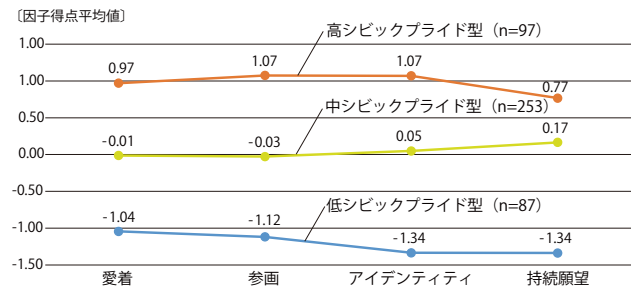


図1 シビックプライド類型別にみる因子得点平均値

表5 シビックプライド類型と属性のクロス集計表

項目	全体平均		高シビックプライド型		中シビックプライド型		低シビックプライド型		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
性別	男性	206	47.1%	56	57.7%*	107	42.3%*	43	49.4%
	女性	231	52.9%	41	42.3%*	146	57.7%*	44	50.6%
年齢	29歳以下	98	22.4%	15	15.5%†	59	23.3%	24	27.6%
	30-39歳	106	24.3%	19	19.6%	62	24.5%	25	28.7%
	40-49歳	63	14.4%	17	17.5%	32	12.6%	14	16.1%
	50-59歳	75	17.2%	15	15.5%	46	18.2%	14	16.1%
	60-69歳	52	11.9%	13	13.4%	33	13.0%	6	6.9%
	70歳以上	43	9.8%	18	18.6%**	21	8.3%	4	4.6%†
居住年数	5年未満	44	10.1%	5	5.2%†	30	11.9%	9	10.3%
	5-9年	18	4.1%	1	1.0%†	9	3.6%	8	9.2%**
	10-19年	46	10.5%	8	8.2%	27	10.7%	11	12.6%
	20-29年	89	20.4%	17	17.5%	54	21.3%	18	20.7%
	30年以上	240	54.9%	66	68.0%**	133	52.6%	41	47.1%
市外居住経験	ある	304	69.6%	66	68.0%	173	68.4%	65	74.7%
	ない	132	30.2%	31	32.0%	80	31.6%	21	24.1%
	無回答	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%

† $p<0.10$ * $p<0.05$ ** $p<0.01$

5-2. 政策満足度因子の抽出

政策満足度の因子を抽出するために、政策満足度の43政策の回答を用いて因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った。その結果、「28.道路ネットワークの充実」、「37.地球温暖化防止活動の促進」の因子負荷量が0.35以下であったため、この2政策を除外して再度因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った。その結果、「29.上下水道の整備」、「38.豊かな森の保全・活用」の因子負荷量が0.35以下であったため、この2政策を除外してもう一度探索的に因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行い、固有値が1以上の8因子を抽出した(表6)。なお、KMOは0.927、球面性検定有意確立 $p<0.001$ となり、因子分析の適用は妥当であると判断した。因子間相関では、各因子間に中程度の正の相関(0.294~0.664)が認められた。それぞれの因子の解釈は以下の通りである。

第1因子は6政策で構成され、「42.消防・救急体制の充実」、「43.交通安全対策の充実」、「44.犯罪をおこさせないまちづくりの推進」など、まちの安全性に対する政策が高い因子負荷量を示したことから「安心・安全」因子と解釈した。第2因子は6政策で構成され、「22.商工業の振興」、「25.企業立地の促進」、「23.地域ブランドの振興」、「24.中心市街地の活性化」など産業・経済の活性化に関する政策が高い因子負荷量を示したことから「産業・経済活力」因子と解釈した。第3因子は8政策で構成され、「35.地域間・国際交流の推進」、「34.観光の振興」が高い因子負荷量を示したことから、「交流・観光振興」因子と解釈した。第4因子は5政策で構成され、「57.社会保障の充実」、「63.高齢者福祉の充実」などの福祉に関する政策で高い因子負荷量を示したことから、「福祉」因子と解釈し

た。第 5 因子は 3 政策で構成され、「60.妊娠・出産・子育て支援の充実」や「61.就学前教育・保育の充実」が高い因子負荷量を示したことから、「子育て支援」因子と解釈した。第 6 因子は 4 政策で構成され、「53.生涯スポーツの促進」や「54.芸術・文化の振興」などの生涯学習に関する政策で高い因子負荷量を示したことから、「生涯学習」因子と解釈した。第 7 因子は 5 政策で構成され、「46.男女共同参画社会の推進」、「47.人権の尊重」、「45.市民と行政との協働の推進」といった市民参画や官民協働に関する政策で高い因子負荷量を示したことから、「官民協働」因子と解釈した。第 8 因子は「50.学校教育の充実」と「51.青少年の健全育成」の教育・育成に関する 2 政策で特に高い因子負荷量を示したことから、「教育」因子と解釈した。

5-3. 政策満足度因子の抽出

次に、政策満足度によって回答者を類型化するために、5-2 の因子分析から得られた因子得点を標準化したものを用いてクラスター分析（word 法、平方ユークリッド距離）を行い、政策満足度への回答傾向によって 3 つに類型化した。

なお、20 人は政策満足度のいずれかの回答に欠損が生じていたため分析対象から除外し、計 417 名を分析対象とした。それぞれの類型の政策満足度の特性を明らかにするために、類型ごとに回答者の各因子得点の平均値を算出した（図 2）。

類型 1 は 85 名（20.4%）で構成され、他の類型と比較し、全ての因子において因子得点平均値が最も高いことから政策高満足型と解釈した。類型 2 は 253 名（60.7%）で構成され、全ての因子において因子得点平均値 0 に近い値を示していることから政策中満足型と解釈した。類型 3 は 79 名（18.9%）で構成され、他の類型と比較し全ての因子得点平均値が低い特徴を持つため、政策低満足型と解釈した。

6. 政策満足度がシビックプライドに与える影響

6-1. シビックプライドと政策満足度の関係

シビックプライドと政策満足度の関係を明らかにするために、シビックプライド類型と政策満足度類型とのクロス集計を行い、カイ二乗検定および残差分析を行った（図 3）。なお、政策満足度のいずれかの回答に欠損の見られた 20 名は分析対象から除外した。

その結果、高シビックプライド型は政策高満足型の割合が $p<0.01$ で有意に多く、政策低満足型が $p<0.05$ で有意に少なかった。中シビックプライド型は、政策中満足型が $p<0.05$ で有意に多く、政策低満足型が $p<0.05$ で有意に少なかった。低シビックプライド型は、政策低満足型の割合が $p<0.01$ で有意に多く、一方で政策高満足型および政策中満足型の割合が $p<0.05$ で有意に少なかった。以上より、シビックプライドが高いほど政策満足度が高い傾向があると考えられる。

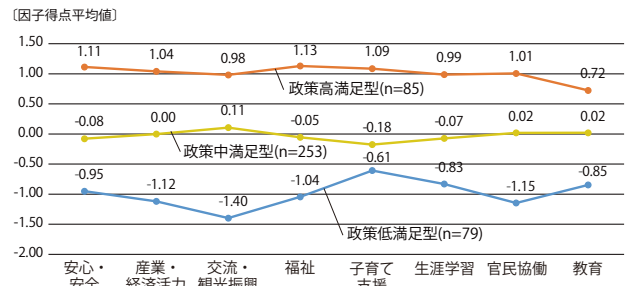


図 2 政策満足度類型別にみる因子得点平均値

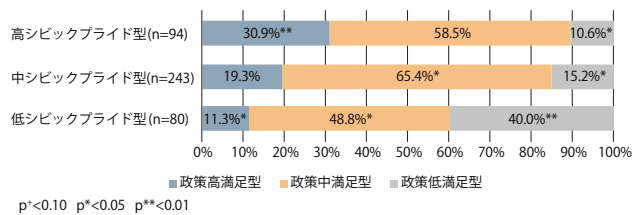


図 3 シビックプライド類型別にみる政策満足度類型の割合

表 6 政策満足度の因子分析推定結果

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子	第8因子
	安心・安全	産業・経済活力	交流・観光振興	福祉	子育て支援	生涯学習	官民協働	教育
42.消防・救急体制の充実	0.923	-0.088	0.109	-0.080	0.021	-0.004	-0.078	-0.063
43.交通安全対策の充実	0.699	-0.015	0.094	0.048	-0.038	0.087	-0.039	-0.032
44.犯罪をおこさせないまちづくりの推進	0.633	-0.064	-0.059	0.101	-0.037	-0.008	0.129	0.054
40.生活環境の保全	0.603	0.114	-0.072	0.157	-0.101	0.026	-0.065	0.072
41.防災・危機管理体制の充実	0.568	0.008	0.141	0.010	0.008	-0.061	0.079	0.035
39.雪に強いまちづくりの推進	0.429	0.091	-0.090	-0.035	0.069	0.014	0.037	-0.005
22.商工業の振興	-0.152	0.790	-0.061	-0.050	-0.041	0.097	0.081	-0.003
25.企業立地の促進	-0.034	0.670	0.137	0.094	-0.080	-0.013	-0.110	0.005
23.地域ブランドの振興	0.153	0.669	0.003	-0.119	0.074	0.018	0.047	-0.050
24.中心市街地の活性化	-0.103	0.636	0.183	0.019	0.026	0.001	-0.062	-0.017
26.雇用の安定	0.073	0.568	0.006	0.104	0.054	-0.085	0.013	-0.006
21.農業・農村の振興	0.300	0.537	-0.252	-0.072	-0.032	0.104	0.037	-0.042
35.地域間・国際交流の推進	-0.096	-0.024	0.697	-0.064	-0.055	0.143	0.072	-0.067
34.観光の振興	-0.076	0.052	0.674	0.094	-0.005	0.134	-0.033	-0.066
30.公園・緑地の充実	0.166	-0.075	0.548	-0.062	-0.097	-0.046	-0.048	0.157
33.地域情報化の推進	0.014	-0.041	0.487	0.027	-0.114	0.189	-0.060	0.059
32.交通体系の充実	-0.004	0.095	0.458	0.054	0.030	0.059	-0.020	0.007
31.住宅・宅地の充実	0.197	0.014	0.451	-0.048	0.123	-0.143	0.005	0.070
36.移住・定住の促進	0.096	0.050	0.379	-0.046	0.367	-0.007	0.070	-0.128
27.魅力ある市街地等の形成	0.010	0.235	0.367	-0.016	0.123	-0.183	0.116	0.052
57.社会保障の充実	0.001	-0.024	0.054	0.923	-0.011	-0.139	-0.031	0.046
63.高齢者福祉の充実	0.064	-0.029	-0.108	0.703	0.057	0.120	0.079	-0.157
56.地域医療体制の充実と健康づくりの推進	0.017	0.134	0.060	0.650	-0.006	-0.127	-0.146	0.149
58.地域ぐるみ福祉の推進	0.118	-0.112	-0.010	0.621	0.083	0.208	0.023	-0.141
62.障害者及び障害児福祉の充実	-0.001	-0.012	-0.120	0.403	0.235	0.104	0.099	-0.016
60.妊娠・出産・子育て支援の充実	-0.039	0.000	-0.016	0.027	0.834	-0.015	-0.083	0.116
61.就学前教育・保育の充実	0.022	-0.022	-0.204	0.006	0.692	0.109	0.070	0.114
59.結婚支援の推進	-0.049	0.009	0.117	0.076	0.652	0.019	-0.055	-0.107
53.生涯スポーツの促進	0.032	-0.026	0.097	-0.071	0.093	0.659	-0.131	0.113
54.芸術・文化の振興	0.007	0.060	0.059	-0.086	0.013	0.632	0.087	0.079
55.歴史遺産・文化財の保存と活用	-0.026	0.025	0.099	0.036	0.018	0.537	0.103	-0.002
52.生涯にわたる学習活動の推進	0.057	0.109	0.012	0.125	-0.053	0.512	-0.112	0.209
46.男女共同参画社会の推進	-0.054	0.039	-0.047	-0.059	-0.016	0.003	0.920	-0.033
47.人権の尊重	0.119	-0.073	-0.038	-0.054	0.043	-0.094	0.772	0.125
45.市民と行政との協働の推進	0.065	0.048	0.188	-0.016	-0.077	0.151	0.555	-0.137
49.持続可能な自治体経営の確立	-0.087	0.069	0.113	0.159	0.003	-0.066	0.455	0.217
48.開かれた市政の推進	0.055	0.030	0.067	0.239	-0.140	-0.021	0.443	0.073
50.学校教育の充実	0.021	0.020	0.045	-0.033	0.024	0.145	-0.005	0.696
51.青少年の健全育成	0.026	-0.101	0.016	-0.017	0.077	0.137	0.094	0.635
因子間相関	-	0.428	0.495	0.664	0.420	0.517	0.640	0.535
	第1因子	-	-	0.646	0.497	0.472	0.586	0.297
	第2因子	-	-	-	0.481	0.413	0.424	0.337
	第3因子	-	-	-	-	0.575	0.599	0.646
	第4因子	-	-	-	-	-	0.436	0.497
	第5因子	-	-	-	-	-	-	0.596
	第6因子	-	-	-	-	-	-	0.294
	第7因子	-	-	-	-	-	-	-
	第8因子	-	-	-	-	-	-	-

6-2. シビックプライドと政策満足度の各因子の関係

政策満足度の8因子が、シビックプライドの4因子に及ぼす影響について探索するため、因子得点を用いて各因子間の相関分析を行った。因子間の相関を表7に示す。結果、すべての政策満足度因子と愛着因子の間の相関係数 r は $0.2 \leq r \leq 0.4$ となり、低い正の相関が認められた。また、「交流・観光振興」因子と「官民協働」因子は、「アイデンティティ」因子と低い正の相関が認められた。さらに、政策満足度因子のうち「子育て支援」因子以外の7因子において、「持続願望」因子と低い正の相関が認められた。

6-3. シビックプライドと政策満足度の構造モデルの推定

以上の分析結果を踏まえ、共分散構造分析を用いて、シビックプライドと政策満足度の構造モデルを推定した。既往研究²⁾により、シビックプライドの各因子間の関係は、愛着からアイデンティティと持続願望に、アイデンティティから参画に影響を及ぼすことが示されていることから、それぞれのパスを仮定した。また、相関分析の結果より、低い正の相関が見られた政策満足度因子からシビックプライド因子へのパスを仮定した。以上の仮説構造モデルを図4に示す。

モデル推定においては、モデル全体の適合度を評価するモデル適合度と、変数間の部分的な関係を評価するパス係数の有意性がある。そこで、図4の仮説に基づき、パス係数が5%水準で有意とならないもの、および絶対値が0.1以下

下のものを削除⁹⁾することでモデルの修正を繰り返し、これらのモデルと比較して最もモデル適合度が高く、かつ理論的に説明可能なものとして図5のモデルを採用した。モデルの適合度を表す指標は、 $GFI=0.819$ 、 $RMSEA=0.070$ であった¹⁰⁾。なお、図中の数値は標準化係数を示し、誤差項は省略した。結果、教育、官民協働、交流・観光振興の3因子から愛着に向けた因果パスが確認され、標準化係数を見ると官民協働から愛着に向けた因果パスが最も大きく、次に交流・観光振興で、教育が最も小さい結果となった。一方、安心・安全、産業・経済活力、福祉、子育て支援、生涯学習からシビックプライドの各構成要素への因果パスは確認できなかった。

最も標準化係数の大きい官民協働と関連のある観測変数に着目すると、「45.市民と行政との協働の推進」、「46.男女共同参画社会の推進」、「47.人権の尊重」、「48.開かれた市政の推進」、「49.持続可能な自治体経営の確立」であり、これらはまちづくりの基本目標4「市民と行政が協働して自治体経営を支えるまち」の5政策と一致する。すなわち、官民協働による自治体経営に関わる政策満足度が高いほど愛着が醸成されており、市民の市政への参加機会の拡大や情報公開、男女共同参画推進体制の充実、人権教育・啓発の推進などの施策¹⁷⁾の実施が、最もシビックプライドの醸成につながると考えられる。

次に標準化係数の大きい交流・観光振興と関連のある観測

表7 シビックプライド因子と政策満足度因子の相関分析

政策満足度因子	シビックプライド因子			
	愛着	参画	アイデンティティ	持続願望
安心・安全	.317**	.088	.174**	.286**
産業・経済活力	.350**	.117*	.160**	.241**
交流・観光振興	.330**	.115*	.211**	.226**
福祉	.327**	.096	.162**	.263**
子育て支援	.281**	.022	.062	.177**
生涯学習	.220**	.105*	.110*	.200**
官民協働	.377**	.165**	.242**	.296**
教育	.296**	.072	.138**	.205**

** $p < 0.01$ * $p < 0.05$ (片側)

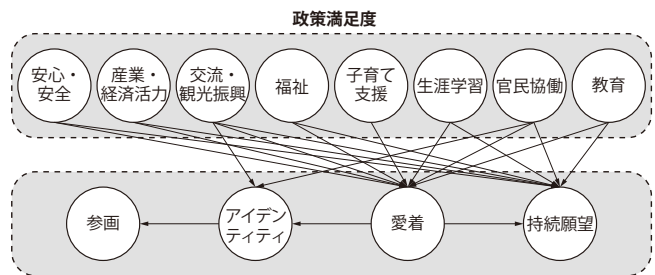


図4 シビックプライドと政策満足度の構造モデル(仮説)

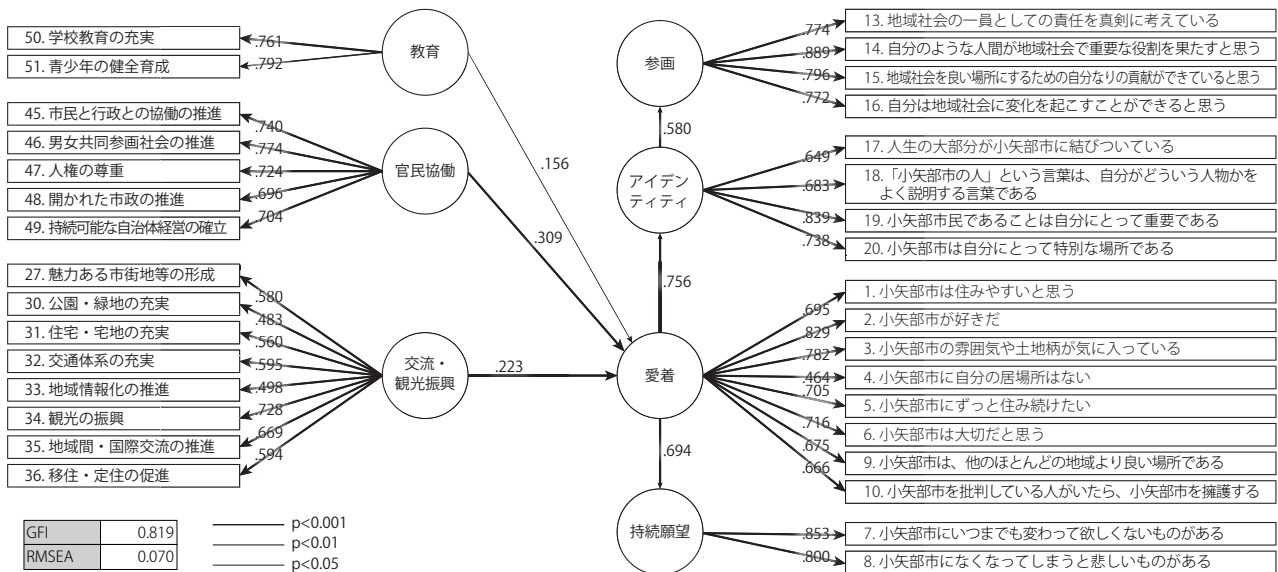


図5 シビックプライドと政策満足度の構造モデル(推定結果)

変数に着目すると、「27.魅力ある市街地等の形成」、「30.公園・緑地の充実」、「31.住宅・宅地の充実」、「32.交通体系の充実」、「33.地域情報化の推進」、「34.観光の振興」、「35.地域間・国際交流の推進」、「36.移住・定住の促進」であり、これらはまちづくりの基本目標 2「人をよびこむ都市空間と多彩な交流でにぎわうまち」の 10 政策のうちの 8 政策である。すなわち、魅力ある都市空間の形成や観光振興、地域間・国際交流などの政策に対する満足度が高いほど愛着が醸成されており、魅力的な市街地整備の推進や観光資源の整備・活用、地域間・国際交流の推進などの施策¹⁷⁾の実施も、シビックプライド醸成に効果的であると考えられる。

最も標準化係数の小さい教育と関連のある観測変数に着目すると、「50.学校教育の充実」と「51.青少年の健全育成」であり、学力や心身を育む教育の推進や健全な育成環境の整備などの施策¹⁷⁾の実施も、シビックプライドの醸成に効果的であると考えられる。

シビックプライドの各因子間の関係は、地域に対する愛着が高まるとアイデンティティと持続願望が形成され、さらにアイデンティティを持てる地域に対して参画するルートがあるという既往研究²⁾を支持する結果となった。

以上より、官民協働による自治体経営、魅力ある都市空間形成と観光振興、教育推進に関する政策満足度を向上させることで地域愛着が高まり、特に官民協働に関する政策の影響度が高いことが明らかとなった。また、愛着が高まった結果、アイデンティティと持続願望が形成され、さらにアイデンティティを持てる地域への参画につながっていることが示された。

7. 総合考察

これまでの分析結果を総合的に考察する。まず、性別については、男性の方がシビックプライドが高かった。これは、男性の方が地域参画に関する項目が高かったことが影響していると考えられる。2017年に小矢部市が実施したアンケート調査によると、小矢部市民の 44.5%が女性の意見が政治・行政に反映されていないと考えており、その理由として、「社会の仕組みが女性に不利である」(44.4%)と回答した人が最も多かったことから¹⁸⁾、女性の地域社会における立場や仕組みが十分でないことが推察される。「46.男女共同参画社会の推進」に対する政策満足度の平均値は 2.85 と比較的低かったが、共分散構造分析の結果から、男女共同参画社会を推進することは地域愛着の形成につながり、その結果、アイデンティティと参画の向上につながることから、女性の地域社会における活躍の場や機会を創出する政策を推進することで、地域愛着、参画意識が高まり、シビックプライドの醸成が期待できる。

居住年数については、年数が長いほどシビックプライドが高かった。Brown et al⁹⁾は居住年数の長さが地域への愛着形成に影響を与えることを指摘しており、これは居住年数が長ければそれに応じて地域の良さにふれる機会が増加するためだと考えられる。地域愛着はシビックプライドの構成要素の一つであるため、長く居住することで愛着が形成

され、シビックプライドの醸成につながると考えられる。また、高齢者の方が若者と比べてシビックプライドが高いことは、一般的に高齢者の方が居住年数が長いためだと考えられる。しかし、地域への愛着醸成が定住意識につながる¹⁹⁾ことを踏まえると、居住年数が短い若者のシビックプライドをいかに醸成するかが、縮小社会における人口定住に向けた自治体施策を検討する上で課題である。

また、市外居住経験とシビックプライドの関連は確認できなかった。他地域での生活経験によって小矢部市を相対化し魅力を認識する可能性も考えられるが、様々なアプローチからこれらの関連性を解き明かしていくことが今後の課題である。

共分散構造分析の結果、官民協働に関する政策の影響度が最も高かった。シビックプライドは単なる郷土愛ではなく、都市をより良い場所にするために関わっているという当事者意識に基づく自負心¹⁹⁾であることを踏まえると、市民の社会参画の機会を創出することで当事者意識を育み、地域への愛着を高めることが、シビックプライドを醸成する上で最も有効であると考えられる。また、社会参画に対する満足度が地域愛着を高め、その結果としてアイデンティティ、参画が高まることが明らかとなったが、さらにそれにより社会参画に関する政策満足度が高まることが期待できるため、そうした好循環が生まれる可能性が示唆された。

次いで、魅力ある都市空間形成と観光振興、教育推進の順に影響度が高かった。都市環境がシビックプライドの源泉となることは既往研究²⁾で明らかにされており、また観光に対して好意的評価をしている人は地域愛着が高いことが指摘されている²⁰⁾ことから、市街地形成や公園、宅地、交通などの充実と観光振興がシビックプライドの醸成につながるという本結果は、一定の妥当性を持つと考えられる。教育については、子どもへの地域教育の要望がシビックプライドに影響を与えることが報告されているが²¹⁾、本研究では、地域教育に限らず、学力や心身を育む教育の推進がシビックプライドの醸成において有効である可能性を示唆した。

さらに、官民協働、交流・観光振興、教育に関する政策がシビックプライドの醸成に影響を与えることから、例えば、市民参加型の観光振興や子ども教育など、これらを組み合わせた施策の展開もシビックプライドの醸成に向けて有効であると考えられる。一方、安心・安全、産業・経済活力、福祉、子育て支援、生涯学習については影響度を確認できなかったが、政策や地域特性が異なる他地域においてはシビックプライドに影響する可能性も考えられるため、今後は他地域における調査が必要である。

8. まとめ

本研究では、小矢部市の総合計画で定められた各政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響を検証した。その結果、官民協働による自治体経営、魅力ある都市空間形成と観光振興、教育推進に関する政策満足度を向上させることで、シビックプライドを構成する地域愛着が醸成され、その

結果としてアイデンティティと参画、持続願望が醸成されるという因果関係を統計的に明らかにした。また、市民の社会参画の機会を創出し当事者意識を育むことが、シビックプライドを醸成する上で最も有効な政策であることを指摘した。さらに、男性、高齢者、居住年数が長い市民ほどシビックプライドが高いことを明らかにし、女性の地域社会における活躍の場や機会の創出、居住年数の短い若者のシビックプライドの醸成が課題であることを示した。今後は、本研究で得られた知見を一般化するための、他地域における検証が必要である。

【補注】

- 1) 参考文献 5(6)7)は、地域愛着の概念のみを扱っており、シビックプライドの概念は扱っていない。
- 2) メルヘン建築は、第4代小矢部市長松本正雄氏(1976-86年在任)が、公共建築そのものに文化的価値を持たせることで、文化的な地域づくりや市民文化の意識高揚を目指すという理念²⁰⁾のもと建設された西洋風外観を特徴とする公共建築群である。
- 3) 実際のアンケート調査では、居住地区、職業、世帯構成、通勤・通学先についても尋ねているが、大きな特徴が見られなかったこれらの項目は紙面の関係上、除外した。
- 4) 報告書²³⁾には、「年代別分析を一定程度重視するため、前回調査の年代別回収率を参考に、各年代の対象者数を決定した。」と記載がある。
- 5) 「4.小矢部に自分の居場所はない」は逆転項目(他の質問群と測定の向きが逆の項目)であるため、集計の際には数値の逆転処理を行った。
- 6) KMOの標本妥当性の測度は、観測相関係数の大きさと偏相関係数の大きさを比較する指標で、標本の適切性を判断する。一般的に0.5以下は不十分であり、数値が高いほど良い結果とされる。
- 7) Bartlett球面性検定では、変数間に相関があるかを検定し、因子分析を行う適合性を判断する。有意であれば変数間に相関があり、因子分析を行うことは妥当であるといえる。
- 8) カイ二乗検定(2×2の分割表以外)では効果量の指標としてCramer's Vが用いられ、0.10で効果量小、0.3で効果量中、0.5で効果量大と判断される。サンプルサイズが大きい場合、統計的有意性は比較的得られやすいため、サンプルサイズによって変化しない効果量を用いて実質的效果を検討した。
- 9) 既往研究²⁴⁾では、パス係数の絶対値が0.1以下のものを削除することで適合度の高いモデルへと修正されている。本研究においても同様の方法を採用した。
- 10) 適合度は一般的にGFIが0.9以上、RMSEAは0.05以下であれば適合すると判断される。本研究で得られたモデルの適合度は、この基準を満たさない値であったが、既往研究²⁵⁾に倣い、全変数間で統計的に有意なパス係数が推定されていることから、政策満足度がシビックプライドに与える影響の因果関係を大筋捉えていると判断した。

【参考文献】

- 1) 井形康太郎, 田中尚人(2019)「地域学習における児童のシビックプライド形成に関する研究」土木計画学研究・論文集 第36巻, Vol.7, No.5, pp. 1181-1189
- 2) 伊藤香織(2019)「シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素-富山市中心市街地と富山地域を事例として-」都市計画論文集 Vol.54, No.3, pp.615-622
- 3) 牧瀬稔(2019)「日本における「シビックプライド」の動向整理」公共政策志林 = Public policy and social governance (7), pp.13-26
- 4) 伊藤香織(2017)「都市環境がいかにシビックプライドを高めるか-今治市を事例とした実証分析-」都市計画論文集 Vol.52, No.3, pp.1268-1275

- 5) Brown, G., Brown, B. and Perkins, D.(2004)“New housing as neighborhood revitalization -place attachment and confidence among residents-”, Environmental and Behavior, Vol.36, No.6, pp.749-775
- 6) Brown, B., Perkins, D. and Brown, G.(2003)“Place attachment in a revitalizing neighborhood : Individual and block levels of analysis, Journal of Environmental Psychology”, Vol.23, pp.259-271
- 7) Hidalgo, M. and Hernandez, B(2001)“Place Attachment: Conceptual and Empirical Questions, Journal of Environmental Psychology, Vol.21, No.3, pp.273-281
- 8) 鈴木春奈, 藤井聡(2008)「「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究」, 土木学会論文集D, Vol.64, No.2, pp.179-189
- 9) 鈴木春奈, 藤井聡(2007)「利用店舗への愛着が地域愛着へ及ぼす影響とその規定因に関する研究」, 都市計画論文集, Vol.42, No.3, pp.13-18
- 10) 鈴木春奈, 藤井聡(2008)「「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究」, 土木学会論文集D, 第64巻, 第2号, pp.190-200
- 11) 角田英恵, 桂敏樹, 星野明子, 白井香苗(2015)「新興住宅地の開発がすすむ地域における高齢者の心の健康に関する要因コミュニティ感覚-居住環境を含む検討」日本農村医学会雑誌 64巻, 2号, pp.140-154
- 12) 羽鳥剛史, 片岡由香, 牧野太亮(2015)「住民参加型・回覧型「思い出マップ」によるシビックプライド醸成策に関する研究-四国中央市妻鳥町「棹の森」を対象とした取り組み事例」都市計画論文集 Vol.50, No.3, pp.445-450
- 13) 総務省統計局(2021)「令和3年住民基本台帳」, https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daityu/jinkou_jinkoudoutai-setaisuu.html (2022年4月15日最終閲覧)
- 14) 小矢部市(2015)「小矢部市人口ビジョン」, http://www.city.oyabe.toyama.jp/ikkrweb/Browse/material/files/group/21/jinkou_bigyon.pdf (2022年4月24日最終閲覧)
- 15) 小矢部市(2020)「小矢部市シティプロモーション戦略プラン」, <http://www.city.oyabe.toyama.jp/soshiki/kikaku/kikakuseisakuka/promotion/1585295442733.html> (2022年4月15日最終閲覧)
- 16) 籾谷祐介, 阿久井康平(2021)「高校生の通学時における地域接触が地域愛着形成に与える影響-富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として」都市計画論文集, Vol.56, No.3, pp.772-779
- 17) 小矢部市(2019)「第7次小矢部市総合計画」, http://www.city.oyabe.toyama.jp/ikkrweb/Browse/material/files/group/21/honpen_7.pdf (2022年4月18日最終閲覧)
- 18) 小矢部市(2018)「小矢部市男女共同参画プラン(第2次)改定版」<http://www.city.oyabe.toyama.jp/ikkrweb/Browse/material/files/group/15/zenntai.pdf> (2022年4月19日最終閲覧)
- 19) 伊藤香織(監修), 紫牟田伸子(監修), シビックプライド研究会(編者)(2008)「シビックプライド-都市のコミュニケーションをデザインする」株式会社宣伝会議
- 20) 谷口綾子, 今井唯, 原文宏, 石田東生(2012)「観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究-ニセコ・倶知安地域を事例として」土木学会論文集D3, 第68巻, 第5号, pp.551-562
- 21) 日高未希恵, 今井秀樹(2021)「中山間地域に暮らす人々の Civic Pride に関連する要因-地域の文化的価値観に着目した看護への示唆-」日本看護科学会誌, 41巻, pp.806-814
- 22) 小矢部市総務部企画情報課(1984)「ふるさとガイドおやべ」
- 23) 小矢部市(2021)「令和3年度市民満足度調査結果報告書」, http://www.city.oyabe.toyama.jp/ikkrweb/Browse/material/files/group/21/R3_kekkahoukokusyo.pdf (2022年4月15日最終閲覧)
- 24) 藤山博英, 野村良和, 宗像恒次(2000)「スポーツ習慣に関する因果モデルの研究」, 日本保健医療行動科学会年報 Vol.15, pp.130-144
- 25) 國光洋二(2007)「地域活性化を通じた農村振興施策の効果に関する分析: 共分散構造分析による接近」, 農村計画学会誌, Vol.25, No.4, pp.533-543